貞門三部書中

淀川油カス 貞徳翁作

不全

御階古書

淀川油糟二部合帙

黄華庵弁六傳来也

伊地知文庫
文庫20
332

文庫20
332.1

二条殿筑波集 写 祇新筑波集

皇祖貞德山崎宗鑑ノ大筑波集ニ増註シテ
正サレシモノセ コレヲ 淀川ト云古書也

新増大筑波集 淀川下モ写

京都帝国図書館

山崎宗鑑の集まつて大筑波とよばれ、新
増といふ、太とい大樹、大義をとつて筑波とい
連哥は元人皇十一代景行天皇比売子日本武
尊の御ことばにもとづくなるべしとあるなどの上の
句とあはせて例まつて連哥ハ始るもの（万葉）近代二條
殿関白夏筑波集とていつ（よ紀の句ありしかふ
業あふに対して反歌の如く宗祇集まつて連歌
と新筑波とをいれ新撰筑波大連哥とふ心ふて宗
鑑の題をふう又筑波とてもきこの物名ふう

又常陸の國に名所ふるもあまたあれ天照大神の出世
給ひ篠琴を引給ふ所廉原に波波西こふのり給ひ
給ひ給ふ篠より著くふらう篠波山と号ぬと云へ

○春

評

春盤に人まちきにもち
営乃もこしのもとにはふ
ひ今今の人は仙物とふ字入色のすこしは用意
ふかあるこそ此も連奇物見きくしそうの味
八百色紙よこの撰者さ用のとの事は見えぬる人人
ふかあるへし予の事時は連歌をたのの思
物をあはは用付用意も物合もさせ給ひ一二句
出そとよみふかりてあはしとろへいのは集の
あもはとて當時これを用の色うは此名句ともに一句
ぬ只今是句付をふ事人の嘲を招くるあるの
三句目は月のうち初句の見悟よせさもんだ是あま
つ紙句ほ事かうかよくうえ人俳諧
事川は小をうを重は言はうえ
是は樣物の臺は月の小能仙をと造る花とえ

○霞は衣すそはぬ山もと桜
山の麓の春立ふ物ら霞ふ

お保嗚くやのと通ミ神ノ達
佛保照もりみなまへの〻こゝろ付佛ニ
あ於られしやか鯡いちニ此
梅の香がまり鼻へ入春立て
目口あり乎ぬ岩の あさ東風
○ 目と口と以ハ鳴りれたニ中へ行鼻ゐ入るなり
志うとのたえぬまうかなり也う
澤水につゐ乎流ぶまありたき
志きえし御脊以をこらん春の空（仕）（脚布）
よろしたふ聊布以嫁乃流之志とに嫁むこなと今ハ付為す

○ う才び以へ乃まし 下以て見へまし
新鶏なれ蜂がを乞ひに梅咲て
鶯のこゑりふおいさう
おいたうりしよ僧の新ふ立ちうくひす此寄さ（陪堂）
御な里蜂以御ふと里なんなり
○ 雪またありぬ山げさや此竹
春の雲やせこ酒く以このん
あきたつ人の来ほ酒のかん
様嚀以酒のろんふてこげしやうかまれ当つり同し（能稽）
火のうきれなまさとふゐしうらん

○不は高根も見のくにつら
なみよの人ハあやしとみまそそ
こだしこくしはもゆうるひ初
うさひめてものすまれはかり
○むとつて人お見はしく人
下手はうくむと云字は夕ま香
日もありしゝしたんさくは法
湯やは雛舟は浮に寄はうく仕舞あれハかし
○ひなすは花は梅とてそれ
引よもく浮ぶつ春風なかむれこ

志ゝみ見なまゐはなる壬生は猿
こゝいハ壬生の狂言ゐつ合点中のぬかり
○まは鄙にねんぎんうりの呼りて
ます川浮くしゝたの海はそ着
五つ子の花嫁はことしおもひうち
浮くしと云ふ志りハ花嫁はうつ浮近う取か
あまね五つの年まて積着浮まこハ之
○吹うし風のふきてあまこの
むらんふといそくは舟に帆を上て
もこ世忠桜浮くの居とも

[illegible]

○ 夏は風ふかもいろくてて物まの
[illegible]ぬるこてふ[illegible]ハ為りたこれと
ぬるてつみたんかしの義

○ [illegible]やたすし[illegible]海表は中楽
花は風ちるまやたる里と吹たそ
[illegible]

[illegible]

○ 玉は[illegible]り[illegible]の表御は京
春風[illegible]

永日門りたてほ けいせん
領地は門立とふ為てたれ[illegible]ぐりとやく ゆ(為り
○ 庵げ(庵毛)は[illegible]ふ[illegible]
水[illegible]は(庵)の相は氷々解
春は樹よりれる、[illegible]
こ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
登ると[illegible]

○ わつたくみのくはかぬ
四月の茶子にとは[illegible]ハ[illegible]
よはうちとる[illegible]遠る年 [illegible]

宮流れを拝み奉りぬ

○夏

ひかりとぎすあまたなり時鳥

碁の夜は月明の狐ふたあたれて

五月やとりもの屋根あるく人

狂人屋形走りあるく神あり

○五条あたりより出でぬ屋敷

夕涼みもせずしばし折の

汁のうちひあり踊り碁の日

部さこれ汁ひて踊る者あり

○ごんぼう若にはりあふこう酒

夕涼みの宿の亭主出会ひ

炭とりにきたりやあり日

夕暮小雨降り出亭主出会けてあり

勧進聖あまたえくいます

腰ふりひさくけいまふて

あをやぎ夜の鶏も猩々

振舞は汁のふるまはれ夜鶏ふるこ

○あるあるに姫とりの組

いろりして蛍は庵をひろげ人

[illegible]

おかしく語るに猿のこゝろ[illegible]

○地蔵うゝ[illegible]

たてまいるたで日や汁のうゝ[illegible]せ

琴[illegible]

[illegible]の日

[illegible]地蔵の[illegible]

[illegible]

○瓜をもひやす猿のいけ

[illegible]の日に[illegible]牡[illegible]

ひやそに[illegible]

[illegible]

[illegible]の衣[illegible]業平

伊勢物語の[illegible]

○如[illegible]貝[illegible]若ふとりて[illegible]

[illegible]

人〻ハ貝足り[illegible]すり用付[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]川[illegible]

[illegible]

[illegible]にたくゝ氣たん

山のゝ[illegible]水鄰[illegible]人の[illegible]

うぶゝ[illegible]と[illegible]こ[illegible]まゝ[illegible]

ゝ雜[illegible]差と[illegible]

○おゝゝゝよりぬゝ[illegible]ゝし

筆の藤[illegible]根をさゝ

大[illegible]にかゝれ[illegible]書物

筥[illegible]清ゝ書物根紙[illegible]

○[illegible]ゝ[illegible]ふを楽

巻白一句[illegible]

○夜[illegible]破[illegible]故[illegible]

貴[illegible]の猫[illegible]

おゝ人の[illegible]猫[illegible]

○秋

○すゝ[illegible]風[illegible]萩[illegible]吹く色

帰[illegible]

[illegible]

膳の[illegible]

○十三[illegible]

[illegible]

夜爲ゆゑ法華一巻

業尊ゆ情況と云ふ業尊は法華巻と異なあり

○要は原ふも況うなり

自量ハ皆ものたくひなし

まくも色よく深し

前は色色の花れう海まふ長自ふ量

ハ多業尊雖も新うる東あり

○言葉は別量は宿はうあり

大方ふ業尊自も更あり

ふうの花ら書草

月見り松草は人人の神なる

○馬り要ふ人在はよ

ふはと坂ふ月花

おうの宿へ祝ふはあり

源氏の大和月も花弱ふ以ふ量（通）

○要は衣は誰ふハ（を）ふ

川ふも宿ふ月ふ

相撲のふまはあうま姫

○ふ京ふに多業ふ京

三ヶ月ふふ坂ふハ物ふ（行）ふ

[illegible]（トヲル）[illegible]（キリヲ）[illegible]長き夜

○[illegible]

[illegible]小猿八[illegible]

八重八よハきしき[illegible]

九里四ふ山風の[illegible]

○[illegible]

七夕も[illegible]

矢竹八[illegible]

子[illegible]

○[illegible]（サシ）[illegible]

二世四五十[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

柳の巻[illegible]

○[illegible]

[illegible]（ヒナウ）[illegible]

[illegible]

小姫[illegible]

○[illegible]

[illegible]

一家の屋根はまだ出来ぬ

るたらんと付き

上

くふるるくてにうし

此前句一句の平押

三ケ月は水ふうちふ新そへく

此三の月の句新古有

すはまはかとみるく新

三ケ月はつり針よたとえたる三度は水ハ清く通

○あハ清くまと破也屋根よ

ぬくうふめたもはに義もり急く

をこ行ハ女ハ清ものと清つ、

巻蕉の女と為またらまりまの蛙の拍音は付

○ロ句にきうハのをこうもきあれ

蕉は花とて耳もあるや

童陽よ碎きの物いふ言とまを

九月九日まて蕉は付独言いへとまふも耳が

をまハきく人有とあまを

○久し

一○子たやありふまにたるん

なまを未ふてけたふ少雑の火

つ

[illegible]

○月日は下に記す暦ふる破れ法古籠（フスベ）食（ホイ久ウ僧名）

名ゑ（三）嶋海まつるかいたう

三沼こまみと申す古物をまいたう法僧牡之

○一寸二寸にうまる名は（夜）よ

書直はる○のをに君は寒（ヒ）て

はいはいの頭ゆく年

老人の身は百歳のあり

○はくらはよまはけ（サ）ばうもれ

七ッ（拉）ふのいろいろ帳みもきて

ころのうち（サバ）ばるはる大沼論

飯のはるはは七粒とふのもとは天台大沼霊百

書はは大沼論あり

○ひたのもの（防麦）をまはみよ

明年はうちはるかはは書

元（今春）をふはせよ言ふ能はの

来春はせよと今春はは百に寸法百

○袖は常も言ふ事なれ
袖なれ（バクスリ）ふるく袖なれ引ぬれ
ちきにたく此字のあひ
ちぎれ紙うり此形りの山ぶきよ
産紙ふる八月紙付る者うり

○袖ふるる者此方人の袖
ちはやふるうきなる中みきて
すあて袖ふる（訛ヲ）なれ
うみきぬをうきてあ物をかぬこ

○忘

○義（恋）ばせ（ばせをの）ばそ
ふる所のこゝろ
物うとも思ひ別る家
○此ふる人ゝ
式ふ訛言ふ

○そこ海は山とハ山とまきぬ
いふと云字前ふりあり

○面白ふ山ふ庵和
そこ海へハ唐和ふ二ふ世
（信陽）（神）信濃ふ世ふ

六害はなくむ如をみをよして
渋たくはをもの井をあ一とく
一徳六害と付かう、せんなくそなはまた浅あり
井をまはのの井あり
○人間万事いつはる所井
寒暑かるかせをたをたる
まうこひあるやはすひ一程
是八式三番にあふはいはふよろこひあるやこ
の不と云詞をうは付かりり
○潤を川のうへふあのるし

この句解を可
○乃ひあれ人よつけつをを
彩をやうをうをせの氣を
泊瀬
をせハ意味いの仮不為是又岩八名作ふ事と云
○凡くを程もあり
うをてを成かをへハ拍も拍つへ
をんだいをくれ碁うまくほのを
碁をハ拍ふをかをうをの有り
○うへハあく目れをゆ氣あ井
意をたををうか力をををあを

りゑん於保とのうの年そよりも
祝ひのうたを作りけふもまた
あるハ百年経ておかしき
ものもあるべしたゞ付き
幸ハ中の孫とゝ思ひまして傾城
をもあらはすべくあれ
○門をあけくれば七とハ十つゝ
代々の紋所ハ紙鳥あるべし
○さて○ゝも女の見てもあるべ
今ハ男も家も入聟ハせず

女の家りゑんほゝ有りて付きり
○高きを高おもと笑ひつゝぬれ
ハ十人を四十と言ひつゝあるを
数ものこれり給る事○高火
八万地こくとゝもあるなり
○若き場をの高ぶるを
ものを指ひをつゝ
あるこゝろに神や宿らん
一分ハ小奇ふて付きり
○人の情やあるにもあらん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○首夏のころ　[illegible]

[illegible]

○扇風　[illegible]

[illegible]

扇風　[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○きのふ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○きのふ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

○めしとあらうやまる紙行ん
海ふかまる事とげぬ井まち
くと紙のこゝゆるに井おとこ
まるとこに実ふ女めとけけるまつに女紙男
ゝ井あるとあり
○おなじ紙こゆ家ちかる
京海紙雑娘とか数ん
紙るも用件めるゝ前白紙こ頭ゝ件ゝ八ゝ家ゝと
部屋ゝ紙件ゝ紙件ゝ紙ゝ件ゝ家ゝ紙ゝ味噌
○ゝこゝふゝるゝ家めたゝ業伊

仏壇物語より人の國ゝてゝ行ゝるゝ紙ゝ
紙と行るゝ紙ゝ有事

○雑之部

○ゝ家と武家とハ二ゝうゝもゝ
ゝゝ家ゝ紙ゝゝゝ下へ行ゝ紙
冷麦のゝふゝ博やゝいづゝん
冷麦の紙紙男の名紙ゝゝ紙ゝと云ゝ博
ゝ時紙ゝゝ下ゝ新ゝ
○四國ハ海の井にゝゝあゝ
漕出ゝ舟ゝ俵紙八ゝ俵ゝ

蜘蛛のいとはやがて商人
蜘蛛のいとはうちかけゆくべかりけり

○春ふかぐまとやとやん人はいかん
須磨の浦に海ふかまたる蜘蛛の
巣にやどりにたる月をなれ
蜘蛛のいとはやがて付須磨の浦に海ふかまたる付

○ふぐりのあるまもまもて洗ちん
春まつ雪慶ふれハ光前
古き法華の袖をわかれよ
玉軸と付まつ利

○ふぐり雪にふるうきいろ色亀
春雪木の枝にうもれぬ○初雪
ふる雪くたくに田地かやあり
ふるつぶへハ田ふて付まつ松ふて付
○はくちもてて花ハ源もれ
七月ぶのさいふ川原ふ梅四てて
つまもひもの月ふ花
撫角にふる手ふ松源ハうり
新の雪に花ハ方をひなる
月の四角にふる雪つぶとふて

武蔵の子の五郎すゑまさ重氏なり（二）

○上野の国の後藤の郡すゑ

長刀の野方の郡の鶴の郡にみなく

稽古のために長刀をつくり舟のりさ

長刀の野方の郡にみやけ山にみなくろのゐの国なり

○うけたる刀に為朝の重氏の作なり是より

重氏の為朝も所望に重氏

なくてかなはぬと食

廿一代の間、後撰後撰集八十代めなる（湾）食

小松殿なり

○こまてや東西に大河あるゆゑん

うゐ完球あるゆゑ人なるなり

三途の川とうん方法

女の死なるふ姫なく寝たる男三途川にをを

引てとるとと伝説

○ひとまと姫にあるゆゑ四人

殺生寺を殊に坂の方指さ

さるみのりもるも無恵あり

殺生の球をみるふあるしらるを殊八無恵対

会なり祈よ左刀球をあり

○塚の内まち[illegible]
ものけハ[illegible]
太り用をする[illegible]猫可義
あの姫[illegible]毛ハ[illegible]
たゞの牛合[illegible]
○賊(メツヨウ)ハ[illegible]
合化(ヒツリ)の[illegible]
[illegible]
真盗[illegible]
の[illegible]

○あひつの[illegible]
言葉[illegible]
人のあの[illegible]
小[illegible]言[illegible]人[illegible]
人[illegible]京[illegible]
[illegible]

○人をつきたる事ハ[illegible]
あ[illegible]
あ[illegible]
[illegible]
[illegible]

時の意味あり[illegible]少し[illegible]ハ付属あり

○そハ〳〵意をかけるたゝ是自

いろ〳〵あり是ハ[illegible]あるべし

用付あり

○ちこれ嗚り[illegible]る[illegible]

聞[illegible]ハ[illegible]ふと[illegible]ハ[illegible]時ハ

意あり[illegible]あり

○[illegible]碁やれん

笠碁[illegible]の[illegible]

碁[illegible]ハ用付あり

[illegible]ちこ[illegible]事[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

○あるハ[illegible]

事[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]人ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありうたいふ山ふ所にて来白のちすくらとうてもを
○おもしろき指もの竜をてうの
弁当をうつるもの蜂うちて内人
俳せ山伏のうち 閑
ふりて銀あるに山伏のくびをうにうけてきくと舞ふ有り
蜂ハ号子香ウ古米ヨリ付合ノ梨
○客人や指合ありて海ろん
養者ありうしく仏蜂ノ巣
いけて俳く産業ハ花を入れ
蜂ハ一切の花の蕊ハ花をひとりて蜜ふ十ふものあり
○とんからに俳る出羽ヲ北海
四人人あふあるとあるつよ
俳の耳ふ注ハ表する事ノ
指の表ハ注ヨモヨ俳ふ人ものを梨
○俳うれ川人球うき連
かのくとあるしまや北方指く
人をきふとふり考ノぬくとハ今ふ付角うも
○新ふうてふ能の足米き
赤よくまあ年角に秋の野山北色紅葉ハ用ふ
俳をはきぬるとあ年ハ川里ノ考ノにす用捨ノうへ

きあるゝ物ゝ名なれば山能の名をとハすとてもとゝ
きゝふあるべきなれとハ書とゝる説あるハ同じ事なれ家業
藍あるゝハ付くゝるゝ物ゝ名なれ染るとゝ詞をとゝ
字あるとゝて書やゝに染るとゝハ見つゝ赤とゝ中に月
紅あるゝ紅花の略なるあるゝと云ふハ朱丹色に紅葉木
も黄あるゝ紅ゝ染へ用ゐる

○あるゝ人の云ふ東海の東

中原氏の毋信あるゝ物ゝ

嵐とゝあるゝやゝ紅花ひつゝま

人の妻紅粉つゝとゝあるゝ例多くゝるゝゆゝ事

○皆人のまゝゝやゝ紅塔借表

たゝこゝ浮波紅ゝの山てゝ

高き高きゝ紅ゝ煙舟紅ゝ代ゝの高ゝ高里遠

着僧房に歌ゝ花とゝふ詩も有り

○笠浅ゝ祝ハ茶屋へゝ

いゝたゝふゝ屋紅餅ゝ高陣ゝ

はゝゝ一盃の酒ゝ長ゝ高蓑笠同ゝ事ゝ

○地ゝ手里も栗つゝ白乃ゝ

世俗ゝ高陣ゝ地ゝ手ゝ

○あゝ川の原ゝ茶ゝ屋ゝ

菓子やこぐ紙のそば屋
浜服部道一宇くるよし
此服部道は浜辺にあるけれども脇ふかくあり一宇は寺町
こかしにあり利生ありかたし
○あらくまけんぎこうこうきえけ
小四ふやうもふ経をゆゑん
天台山よりもたらす○火
狐火は人をは経をむかりしへのそふる
○山の奥ふか行のうらあゝん
谷川ふかく流れうらゝと

うらうらとあかりの柳朱れ来
うけてふたゝびこゝまあるこゝろひてとけこと
○近江中楽能をとゝ
湖はなきが面ていとゆも迫
某河の某は○ん此をぞん
如初は天尊来りて金堂の神より殿山の地蔵堂を祭
にゆゑさはぬ事く某河の某来つくゆるさまし故ゆゑ
○神をかりてたゝとかれもり
彩色し仏の花は咲をけく
ゆん○ん出をり立し古る寺

○とても死ぬべきうてゝ服紙もこゝにん
只まゝにうつぶされる炭大豆
節分の夜八の宮りゝ火ハ消
豆のらくゝ多ろ紙つゝよとまをあに事利
○桜ゝ本に多まき絵しうと
不司代の画をまりをて里ふて
すゝ紙をこゝぶハ京めまち中
○京紙むすへ(ほ)ゝ
ゝんにくゝ紙を筋をるこ海の檀
きうにゆをれ撲ゝほゝ

ぶとハ惟喬惟仁の世あゝをひの時お撲ゝ祈祷壽山と
東寺にてをゝ)ゝ
○紙とゝくゝも振袖もを
をけも多ゝ紙ゝ笠れたつ立て
書板ゝをほこゝ紙をきゝ
すけ多き紙部屋多紙ゝを立多ゝ多里芋板ゝゝ
たゝハすゝハきハあるすゝきゝ
○あゝ梨酒の立ゝうゝ多き
高紙やよゝてゝ月里ハ濃ゝ
起ゝ紙ゝゝ芋ゝ

古代のうそぶくやけたるふまて年月をもこけむしたるなり

○六十三ハうしにてあるに
高野ふもとなる紙屋にて
宝庫紙分く宿紙とよぶ
繁昌を京都ふとうあるなり

○戸紙とぬるとあるくうあ
銀箔の九つまてハちもなる
京つしの刷りあるを腰ま
屋の年代ハ九つ二年の時ハ京川十あり

○モのあるあるハくまてて多丸
ぬるぬる場ハ紙をハ紙をて
留主居もおりたる物留りもん
屋主ハ自利してすきにいろ所
○モのうあるハ物をあるあるう
京つしの言野屋ハ紙をして
せるにして日宮参り今を生人のた
○墨にうてやうふつのうん
言無墨と付うう流紙と付ふう
今ハ二佛ハ中間をう

仏教ハ吉祥ヲ招ケ
世ハ捨ヲ宝ト崇ル所なり
一切ノ人ヲ救ハ道ノ神ノ
○三笠の山ハ立ちせん又
天の原古酒飲とたもてる
笑ふ時家ゆとをゆうもあり
天の原を左ハ勝ふ物ハ酒を飲む也（前
○大和ハこの山ハ
うつきゆ歳ふる人ハ
八年ゆ年ハ

五と三と八八つのうすものあり
○吹もふれすもあり
ハ月ハ後ハ仏角ハ今ハ月ハ仏角ハ
○月ハ笛の時ハ
ハ月ハ琴ハ三味線ハ
琴ハ月ハ三味線ハ
○吹も吹ハ
山伏の貝ハ
たゝ里ハ
吹も吹ハ

[illegible]

○まことにうの[illegible]
あわの魚いさ[illegible]
深おもしろいあり[illegible]
[illegible]紙[illegible]魚と[illegible]

○切たくもあり切くもあり
盗人[illegible]
[illegible]の義[illegible]

○切くもあり切くもあり
[illegible]

○[illegible]
[illegible]

○[illegible]
[illegible]

○[illegible]
[illegible]

○[illegible]
[illegible]

逆てその家祈ふ沢橋戸
橋原の家度的御の通りと東橋うるるる
○いうのまに地蔵菩薩かるれ
戸をたてるるたてて坐
燈籠さへあき油火ゆ吹風
燈油風ふけさし戸ゆ言利
二三百貫嘗ひやしう
等語ひの君のあ人名ある
嘗ば橋うでも元たぐす
色人の家あるゆふ事ないも山橋の橋ゆえたぐぬ

○あれ変だう山みやてたう
家ふけぬ馬ふ神主のけるる
屋ふる光ゆまいうハまるる
矢ふるる神ふふて稀よあるぬ（家付ぬと別たう
○まくてあ沢せ家ゆうあま
西川ハ醫屋の言も沢る
橋家にふ沢言の家
西川橋と付う醫者ハ言の家ゆ橋る至あう
○おくるゆうみる服と言も利
や沢茶にるるまよかき沢土損

[illegible]城のうせめ
水せめ[illegible]敵城を攻[illegible]
むへき物城悔[illegible]
むらひの[illegible]
歌の四[illegible]
[illegible]むらはあやし[illegible]
進軍主の故事
つら城おもれいぬ[illegible]
指て[illegible]
前白刀[illegible]

[illegible]
前祥は総[illegible]
[illegible]
天八城刀[illegible]
[illegible]前白の[illegible]
[illegible]城[illegible]
天八[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今はをのへうへふあくぶ同字ふあくぶハ仏言とかにより
二句さ[illegible]あり

床ハ菅原ふかくさそうて
菅原ハ観自在天の化身之

ひかりくや時代くふるん
影の月かにかと等ふるく

同やふとうりやうぬま
影を同じて付うかいきるぬき美ハ月と思ふ孫皇等之

思ふとそもてをふれ言ひよ
春日野さるこ所

雪まれるふうふ餅こうへ
すを餅ふこうゆふ[illegible]

○ふふふ美て筒ふうと
法めらしふ油やふふぬん

嵐ふ人今行まぬぬる之
油の行ふまふ嵐もあまとふ梨

○いうにへのこふ出ふうふん
ふすまや報ふふ[illegible]軍

鎧ふて[illegible]ふ行美ふ者
次信忠信ふ子ふの半ふ

○さいはいの桜ゆきくらふるなかに
のてあるをひぬる瑠璃ゆつかく
瑠璃なる女御東衣に来めり○
瑠璃は小さに黒き色をつかく八房ふとりあれ
○あく腹をやうろふりうあれ
うへあるをなほしの子ぞを年ゑを
屋くれとあるやまむくさくれの上
あるうへ腹をのるかの梨
○はは八房ふとりの腹をして
折をいかをまをふをあるをさ

醍醐味の只一つをあるを
五味法文ハ四味ハ蘇酪醍醐味ハすくれてるとゆふをん
○あかうちなる星とんやをいん
○まをくほかもまをくほかもあふく
琉球
琉球國ハちくあるをまをなし
高ひふをまをくほと付をう琉球ハ女の男ぞすくれ國と云り
まを海をくどふあるをハすをちん
ぞめをを海もをふをはくをう蔵
碁盤ぞ汁やををこ事をん
をくちう汁と付をう

○ものこ[illegible]はは[illegible]ハ[illegible]しと[illegible]世ト

小[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ても[illegible]ん

藏[illegible]ハ[illegible]しハ[illegible]ハ[illegible]

だし[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

○山椒ハ目ふも[illegible]やこ[illegible]ん

親ハ[illegible]に[illegible]ハ[illegible]

油上の白ひやこの毛古狐

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]狐ハ[illegible]

○[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

犬の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

○[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

○割[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

牛ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

△牛の子に[illegible]ハ[illegible]角ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

○[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

なめりの矢[illegible]

高須野の狐女あるにや

玉藻の名は追ふものかたがたし対る女童

○人をハ喰ふと人ふこハ侍し

橋たゆるもの（物ふるる鬼のさま

朝拝ハ為きの事は抜ひ

あるさまにこそうとて侍し会之

○たふとハ（とうとし先ふ

一口ふくみ蛸ぬ侍まとて

鬼よ一口用ひなる

きうとの餌ぬ雇わふやさす

蛸ぬるきうかを蛸り餌ぬ侍まり餌ぬ

念ぬ入侍ハたふハ一口ふくみ鬼を甘ふして蛸ふ雇れ

○うしもものとたまうれ

ぬうすふ曲ぬ風香の袖

あうまうあやたうて天人

羽衣の能ぬ名あり

○名ぬ山ぬ箱ぬ石清水

今て侍れ神も黄ハ男ーて

主ぬ山ぬかいうまうにそや

男ぬて昔男たうとふ時刀ぬ今故ハ一旦に出たあう

○うめきたまふて斎宮ひきる
宮殿の部よりあれ人みへ
部屋たかいをいかすてすゝめき
人多さに飯いすゝめたまふ
○嗜ふの飯をひとりひぎふ分りん
部屋の方に嗜ふ給へ給あゝ
たゝこやるゝ所に井生給人
竹生殿の使者給へ給へ元嗜給てはすこやかにうつる
○時に部てやはとたゝかん
もうとかたのこゝ場のクすを

淵ーくて朱殿の西北あと
周の文王大公望あゝ殿の村主ゆかりこゝ
天狗ふも為もるかねゆかりあり人
鞍馬の寺ふ古よりすこゝ
没ちゆゝ清ゝ人ゝ山桃味落
拐こまゝ見て分あり
○今うもしまゝ為ゝ番近
○山寺ゆ入れの猛ゆゝにしし
むゝ一句ゆ猛為今用ひす
扇ようけゝ能用ゝ

[illegible]やちくんの奇こうにたちハ二月之

○[illegible]かいの國へハ祖[illegible]し

おいそれあるてや日も武田の

[illegible]くんそれ今ゝ[illegible]夢ハ[illegible]めきて

割[illegible]ハ武田のけんあり

○[illegible]念あり[illegible]

[illegible]ハ[illegible]人ハ[illegible]

[illegible]ゝけとらにそふ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]こけら[illegible]付板の一[illegible]

汁[illegible]ゝ[illegible]

○[illegible]

[illegible]

日[illegible]人[illegible]を[illegible]

○汁[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]人や[illegible]ぬゝん[illegible]川

こゝ[illegible]

切[illegible]遂て[illegible]退と[illegible]荒[illegible]毎ハ[illegible]五[illegible]

○汁[illegible]夢に[illegible]

[illegible]

[illegible]や[illegible]帷[illegible]

[illegible]貫田合[illegible]

經うとゝ[illegible]ハ布あて書とゝみへ[illegible]

○汁の面よと夢いとゝ[illegible]

○豊臣[illegible]

いうに宮へきん板書[illegible]

[illegible]

○衣のよるゝ[illegible]

人ハ皆腰[illegible]

例の用件[illegible]

[illegible]小[illegible]

相撲を[illegible]小[illegible]

○のとゝ[illegible]

四方海[illegible]

茶呑[illegible]

上[illegible]

茶やハ[illegible]

○蕃通のとゝ[illegible]

[illegible]

角力[illegible]

頭に[illegible]

蕃通の道[illegible]

[illegible]いよ[illegible]ふてさうやま
羊かとの武蔵の粉のひらふて
てうの紙重羊かてうにとりあすこ
○刃紙一帖うせてそにもり
我屋やに時〳〵ぬめちのひ枕
法圓のあるぬ戎大墨
為部に相大墨たかなすれ
取も立うる墨法もに同字
おなのかに形あるう大部ひ
中川白かるの紙印重月の約

額白は馬角
○かの墨細筆とへりり
墨茶つ白乃口をもそ紙は大筆
紙いろ〳〵に切てひとすす
武茶つ白の口紙を墨武うみ紙ぬこうら白神あり
○二日酔かいうみもあるし
朝の紙板とあまりこ
御茶も後はきうぬこうぬけ
法ぬうこしとを墨ありそこ
○墨白紙筆すは伊勢海の浅

道者舟にのりうつり筆紙硯つゝ
何やらとかへ[illegible]大風
乃者の船中にて風波甚しく[illegible]
○うたてさうらい[illegible]
法華経二のみこと[illegible]に
[illegible]隆ふる波たゝ[illegible]
法華経[illegible]二方のうたを毒隆[illegible]
○用心[illegible]お法丘尼[illegible]寺
[illegible]小神の[illegible]吹[illegible]
此一句奇[illegible]上句[illegible]

○陸奥守[illegible]に[illegible]
[illegible]通り年[illegible]日
[illegible]武家[illegible]
[illegible]
○[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]
兵法[illegible]
[illegible]夜の[illegible]
[illegible]
[illegible]

細のよう米川うそ町
島八うくゑ門ゆうゑ紙あるまま
一日　大日やたしかゆかてをたん
うんうんかしふ八つふ銭市
求　屋根ふかあやそ天ゑが石の色
玉慶すあ紙蔵ゑ吹ちゝ
備る楽ふあり金財ゑあう物ゑ色あり市八上
市勝ゑ蔵とあれ八蔵ゑあゝらひ行
○たうもうたたうとも有
ゑ色紙祈かうも喧八色ゑう

あれゑ紙寺の修やゑ化物
ゑふゑ紙啊ゑうとや海ゝ京ゑ有り
○薬へやゝと江口ふそふ
世ゑ市紙八ゑ仕ゑうふ
京んゑうゑゑ四仕ゑんふ
式目ふ行ゑ紙賢紙別除すゑとあり
淋ゝあ利淋ゝ嘉慶
世紙八ゑ柴ゑ屋に浅杉ゑ
又こゑゑとゑ八特杉ゑ海

みこ様とて大事の宝物なり

○岩のうみかたを何様云ん

但吉野の滝ふる流る縄の如

みしら波吹き落れの大風

見しめ縄と付て利

○仏神の名のこゑ流るや堀

坊の時を三百餘年を引て

雪の汁を書曽我殿

観世八雪と云事也

及又三百余年ふる木曽

○上の大しゝて川ゝ流れ

川水宮ゆゝふ事を詠る

洞り流れぬ水ふる

宮の蒸気三丈八尺にて宮の書と云事

宮殿宮ゆゝ流れ詠る

○上の中ふる志ゝ

入定の大師や風を引ぬん

衣笠せゝと芳ふみ

年ふるものゝ事ふ

宰相とゝせや長谷寺

門前の堀を掘りまとめ魂祭

大分元ぬまこいきつ○迎火

弧の堀をもひろへたり

○面白く移せる移書の意

茶の湯に掬書うつきれ神

此前のすきハものすれ分所とふんなれハ茶湯とつけ

なり今ハ移書とをへハ茶湯乃至に当る事茶湯と付へ

○いけものの生け方もあるものなるものや

掬りハゆやふとうつきれ神ものハ志ふあり

○今をなら弧所ハ分量もあり

落ちけるものの木に茅の古仏

あるの分量ハ人の形分りなるを仏ハてハ人信分に茅

字分り所合と四ふ屋のし

たつもし柳や化し歌舞

揚柳観音分量のと木といり付り

○仏の前ニ七人すりはうし

よりもものとうとそ四ふ文殊之

庫物の弐細工者此前

たつくハ細工分量

○高野此大阪名所と強量り

[illegible]の汁に[illegible]をけずりて
[illegible]海[illegible]くしてもよし野の大根ふかく[illegible]高時は同じ
[illegible]なり
地黄[illegible]はやはんる[illegible]生
ちそうに[illegible]食[illegible]
○[illegible]の日や五条[illegible]
[illegible]に[illegible]
炭[illegible]形[illegible]
すこし[illegible]
○[illegible]

○潮[illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]
たこの[illegible]
○頭中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○日[illegible]

○ 香ハならさこかしにたてや香ぬらん
咲ぬ内こそあらしみん（乃ま）
香ハならぬ菜ハあらぬものなり
○ 入りあもあり入るも無し
是前句咲く花を散らし其のみ七句付けまく
句ふるえんつかふれ咲しとある其一句の西行まこと（ある）
まつ人こそ付し其祇公の日記ハ恋句なるへし若
しかれとて名付くるまてハなる句ふ月一句の理きこえ
ぬときハ前時ハ俳諧なり九月捨ル事し
● 負徳の すこし 抄る 豆乃種

清運と俳諧ハいふに瘡なき
まれん瘡なり往の切かにや多いてきぬとなき
○ 笑へハ云ふにある事ハ大すくなき
子供思ふ養の巣守る鶴の哉らんと
此句読云む しまつよの連歌ニもまた歌にして此ニ千の新し
かれいのれとなれハ言葉に笑ふ内にも海とあるまとも
云句に宗祇の飛ぶ宿るハ見へぬるけとの古りかれと云
若句あるまてそれを盗て下の不作なる哉宗祇を入
ら仰事かのしなまてとも定て我の時代の権門の人
此句なまて八歳に恐もて入るなるへし 想別 連歌めきて

なる句は祝儀ばかりはこのまゝ年と新屋し
ゆや指鬼ふ祈誓すなり
形ハ句をもいたく祝ふ元熊野詣新宅屋と
○洲しまあとへ人はとゞめぬ
夕雲ふるし此物ふ擬うけて
夜を敷やあふ蔵や
酒ゝみ掬ふ
○ちゝ仲間ふ
忘すてゝ高みゝ此方ハ
さ年歌出ゝ奇ふ

ありしそゝ礼といはや
大力形式の禮なり
○子年四つふ四へ去ふ刈米
かこゝもゝ子ゝ祝の芋ハ
蓄外酒や雑炭たゝ
いもゝら雑煮ふ仕ふ
○去年こゝも下ゝ京の先
こゝぎ先ゝ子ゝやうす屋
蓄書のたゝふ板屋
四月と雑とい面白し

○ 足らハへのとハ浅キに離まし

きぬるや山いのかけの筋

春草も多まや桂西の図

七老も孫にたとひあるとも

浦島か箱もさ開をたくれめや

丹後紬の入りて多寡

浦島丹後の國なる篭も箱にこそあれ之

○ 山伏の来る足音や高からん

汀なり見たる家んのうそ悲しく 彼

神木の心あるり多まかつまよ

神木にハ祈とらりもへあり

香に嗅き猫の耳とハ見やらん

下よりも加勢たる虎のいかりし

やぶ薬師癒さもうる字も名付めぬき

そこの字とおこりと云ふ字揃へり

あれたる虎の毛こそさかられ

此のこなと曽我の十郎○になん

毛有し眼孫るいまに関付まん

音ハなくてもたつも跡滅

見られハ舞郎○家ハ計せ付

今朝のお汁の実は八ものの
はなしをいろいろ何如と今一色ほしがるあり
○川ふかもあらぬ別の為まをして
ちれなかは四ちかの紙人形
物をと云詞あるは是とえんぎされ鶴亀と付合
○口紙すてをしたれ川しかは
人にも里程願のあるもの成
牛を賣ぬる西瓜をかうて
旅の西瓜しかけまは願あり況人ふ不似合のあり
○あまりはなむさたに成入まを
ちりはめら城ちまを城杉樹
右為替証文
廣野ちりはちを長陣
ちりら城成陣所ら杉ふくあり
○あるもあるまを成つまあせるまを
中宋成小釜めを（杉ふくあ
ふ山星は風呂は
風呂の前は神あり
○酔ぬる時は
飲されは濃情あり

[illegible]

○ 茶の茶たるこのむ茶也

茶とたとえ云ふ名目の事

○ 雨動のうんやひみうんん

一ふりうりかくすかぜにちる

小雪ふる雪ぢやまこ涙ふる

すかハ濱のまさごかりかくハ栗の殼ふるふる五屋之

○ 十帝夜の高ハかあ屋

大神の霊屋とも云ふ陀羅尼

海倉うけうけ下ふる禅僧

禅僧ふる法たふふかまこハ禅ふる字ふくこ一きれと佛法

ハ禅りかまくひよむかまこハかあ屋とふハ苦かくさうかり

○ かくもかくれする天の橋を

湯殿の後の形ふをこれしと

とうとうとうこうかあふる詞

湯ふをこれしてとりとうとうかり

○ 夜ハかうふるこうこ屋ハ見れする

うつくふる神も細工のうち柱

盃の姿ハ重ふるてい

雪うつくふと降すうう

○ふ絹しもんなりやロハ不益まゝ也
刀は柄にかくる御紋馬
武士(ブシ)には何さむ因なれすき也
御免る我身のさむ所よくかまりなる物也
○大般若よみ女の祈祷して
たきやう巻見之みるもとく
此前句雑句なれハ別に付やうハあるまじけれども
今ハさしむ不之の詞ともして用付に有之又地経と云
も何経とあまてこそ申さる歌もれ又大般若なり
楽しむ経と付候う同字不なれ也

郷出ほ無業なりけ遊しし
たきやうの他郷に言なれる源氏物語も去ハ巻也
○あけたたるハ川わかれん
是ねまし八骨皮とこそ如くなる
御わね別やむしも皮
骨ある皮ハ虎の皮ともいへり是には虎の
あり是ぬまし八御わね別と申す詞とする之
○美しあるに御る事ふる詞木
手拭ハうけるのつる格ふきれ
古き物常ぬ残御不詳

むかしの茶湯者は拭をうけたる布をとこ
○石の手水鉢の中に蓮の葉ふる
はいの一句寺社前と云ふ所にて八作者名と云たるにして白ふん
○極楽浄土と雑煮思ひうん
りだいなやうにとの新年
極楽にたのみ申す
○三のさいは浅草の市川さ
ゐう（や）指ふ賀を開すく
若狭ゆきうふちや
津國の方うに近江ふ有すこ指紙も
開紙も新年にとかの白紙有案
○浅いふは源氏大鏡を注
者をたゞ六百巻毛詩七巻を
六百巻を大般若経ハよく巻八開付こ
○孫は一信ふ有ないもかしく
注目）寺にこれあり
○袋は二ツ百ゑ
大黒と布袋につかはし
同字別吟有とも春日に大仏日と大和国て布袋ふ
吟ハ結うこうふ注ハ

用捨あれ魚きり刀架

○羅ハ白し魚の香やすが

市袋い魚ハ所くろ人のやり次第あけこみく

おれ給ふ事し信州里

○人ふハあしてハ人ところ物き

義紙ハ入と云ふ家ハうしいて

所ハ世付海ハ所ハ○たこ

う○第ふハ何貴月入と世二書ハ何をめるかれ

ともたるへ多のうまあふ敬ふ若

○あいする家ふ部ちめきそす

うみを見ハ御だいのトかたまり水

感用 ハ海い毎へぬ人ハ所ハ

養生若ハ蟹刺を戒和尚ハうんする多り

○及ぬしてハつと入を利

義紙若を笠ぬ人の為やり

一樹ハうけふ神やまたん

為めとをもふ所ハ所ぬを神社やるを為ふこ

○をひたふ又ハ素ふハ手やせ

うとんたいてかへるを人

日野夜や所四ハ若ハ世せつ2

ひのうらんと申うり

○ 佛ふかいと元うり生きり
[illegible]
[illegible]
牛うりと申儀重成と[illegible]稗之

○ いろりに[illegible]
すれたるその沖中ふかく
[illegible]稗成まもり[illegible]
[illegible]の為に穂成稲の数ふ付[illegible]之

○ 佛成のそ味遠ふすすめ

極楽のたれり酒の二り酔
宮後の所作一夜の[illegible]を利
待あとの切腹一束のひ半ふ[illegible]

○ [illegible]
海渡る樽拵ハ舟のたし京
小唄[illegible]のいそぬ人
押成之神[illegible]ふ[illegible]之小[illegible]ぬ[illegible]ハあいそぬ
人を遊と思ひしとあり

○ [illegible]
葬れ[illegible]し達[illegible]の[illegible]

笠もやかきてんちく[天竺]ふた

笠かきゆ〳〵ふめ〳〵ぬきたの源のとかをとかの○と付なる二九

なるに永のこゝろあるゆゆ〳〵笠と付二十も親しまるゝ

○あるくも方月面なくも坊主

聲入の多へふ源る一つたし

座敷の多月先〳〵屋敷井

座敷の一をしと云名目坊主

○居もいれすうたもたくまた

相撲る法力考らに塗るく

玉江の水り法月と云ケ月

宣之の奉ふて射法力紀弓八月力主

○碁打刀六将碁 北ケ

演戦を於ひ心おくるの弱ケ〳〵

是用射人さるかるくしに八苦一の作る義めるユ文あ

八〳〵に理年〳〵さるつる井を小るる法力七原面下〳〵

○法のに郭〳〵いまに原芝氏

角ら源の合戦力ら

○十七八をあふうるれ

小南豆蔓瓦の新ふるひり

笠の義や祈ふるいもむし

[illegible]

○ 汁くゑこと に汁 [illegible]

[illegible] 生木にて

門守形成 [illegible] 二豆

[illegible]

○ [illegible] 武士 [illegible]

[illegible] て上 [illegible] 貝

[illegible] 藻 [illegible]

[illegible]

○ 神も喰義成 [illegible]

[illegible] 海の上 [illegible]

[illegible] 猿 [illegible]

猿 [illegible] 王の上り屋成 [illegible] 海二

○ [illegible] 法 [illegible] をたゝれ

[illegible] の [illegible] 口よせ

海 [illegible] 惟喬

これ [illegible]

○ [illegible] 天 [illegible] 付ふ

大海 [illegible]

久選や [illegible] 成 [illegible] て

文選ハ梁の昭明太子、文句(モンク)ハ天台大師の[illegible]
なりけんなハ在家にて我等も江法大師ハ天台の
志之旨なり

○屋敷ハつくしの里より道
筆より五里有る所ハ一里有て
ちくし里と云ふ筆崎衆ハ大宰府王命なくして
我らも是ハ少しぬ里なり
石山寺りやよむ日ハきハ
京より日は黒まて一里石山ハ五里有りとなり
○金(コガネ)ハ[illegible]売(?)やきもの備

梅がゝの[illegible]ハかまくら[illegible]
三道用付なり此時代も三條公今ハ長頭之
○是川ハ[illegible]ちんの川也
三あり小屋とも有り是つゝき付黄色ハ
ちんの里ハ色なり
○思ヘハ九あり是有なり)ハ思ひ侘
此歳句誹言なし
○ちかき刀は[illegible]有る
○升とやかくいと出る仕立の國
刀ホり○[illegible]ハ[illegible]○[illegible]小刀とハ[illegible]

○佛も地獄をはなれたまふ事
法華の経如是妙法蓮華経と唱
は前句は飛りたるとて天くるまを又習ふたとハ歌仕上の句
歌ゆゑにとなりうるる
○うせ者ゆゑ[illegible]百万
五美の詩をしるす
○墨をすりかけ[illegible]
学村の中ふ捨て牛を皮
野寺寺数ゆゑ盗そこなふ
時代寺数七牛を皮

○あるおそろしとやく[illegible]
うるれハ[illegible]射[illegible]
頭をつ[illegible]
射[illegible]
○四方を[illegible]ハ又かしこ
皆人の的をへ[illegible]
名あれたる[illegible]大臣
賜ふ[illegible]
○以[illegible]渡りもの
西塔ふ[illegible]島やたこ[illegible]

[illegible]

いとをかしかりき

○ [illegible]

[illegible]

豪門[illegible]

むかしより[illegible]

○ 人もの[illegible]

[illegible]

[illegible]

頼政の[illegible]射[illegible]

○ [illegible]の汁[illegible]

雑[illegible]

雉子[illegible]

○ 寺[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ [illegible]

宿[illegible]

○ [illegible]

こゝにや柴垣のそこ[illegible]ん
名水は生不[illegible]へ[illegible]汲ふやう
[illegible]ふ念を[illegible]やるとしとあり
○[illegible]の穴[illegible]を煙[illegible]あり
[illegible]すれ火吹の井は在[illegible]て
[illegible]に釜を[illegible]たゝぬ
[illegible]こみを[illegible]たれあり
○淡たく[illegible]あんをすゝ
[illegible]ぬ[illegible]ハ夜の中もかゝるして
[illegible]戸ふ時[illegible]やゝん

[illegible]せとに[illegible]たゝふ蟬那[illegible]の衣といつハ風[illegible]
○あやしやゝ[illegible]も[illegible]かゝ[illegible]
[illegible]言あり

○山小袖人の[illegible]れいとう
[illegible]
[illegible]へ
[illegible]ハ元来伊勢國服部氏[illegible]れ[illegible]同事と
○[illegible]猩々[illegible]似[illegible]
[illegible]ぬ猩の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ぬ古寺に猩々[illegible]神あり

○[illegible]
二人とも[illegible]
邪淫おかす[illegible]の世の中
二人を邪淫おかす[illegible]
○[illegible]
[illegible]の[illegible]
の[illegible]八橋の下
[illegible]川と云[illegible]
○念佛[illegible]
[illegible]

伊勢宰人やうくれのこん
いせあること[illegible]
○[illegible]
[illegible]
世[illegible]
暦[illegible]
○[illegible]
[illegible]
[illegible]
小[illegible]

○罷出ていかこの[illegible]

[illegible]

[illegible]

○没ハ屋あり井[illegible]

[illegible]言

○屋[illegible]坂の[illegible]

八幡ハ小赤井坂とあり

○おきんとすもハ[illegible]

[illegible]言

○みとうあけきも神の上[illegible]

[illegible]言那

○[illegible]

神ハすぐ[illegible]

○片[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○世の人のまもりハ人をもて
親言あり
○世俗ハ[illegible]と思ひしに
市場をめぐり墨くゝ[illegible]も死きり
元来のうせ[illegible]あ[illegible]弟ふうと思ひしふ[illegible]
死あるとなを[illegible]
○四[illegible]まゝハ[illegible]れ[illegible]
親[illegible]
○[illegible]人の[illegible]ふ[illegible]
親言形[illegible]

○[illegible]度あるとやうすむ幽[illegible]
忠度の[illegible]山[illegible]の神あり
○ふり[illegible]
[illegible]親も死る時ふもへをこゝて
いふふ親[illegible]ふ取[illegible]ふ道ふ[illegible]
儒[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]五[illegible]
[illegible]人の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
入[illegible]
教誡の[illegible]

ありてもなほ多年[illegible]人の親[illegible]と[illegible]
て[illegible]里たるべし[illegible]今[illegible]も[illegible]
親[illegible]ハいうてらあこの[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ人の子[illegible]
あと[illegible]
くハ後[illegible]
[illegible]

○後〻猫の[illegible]ハ小[illegible]
[illegible]

○[illegible]

目の[illegible]
千[illegible]
千[illegible]眼ハ[illegible]

○[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]

○[illegible]
[illegible]蔵[illegible]
[illegible]

能をしらしと申さるる
○ものゝ下にもまつ出れあり
雜之部
○口舞はちんちん利人を捨たり
さりはまんつれさる男なり
自慢はものゝ部けはひ移り正なり
○一二之とゝ家見えもの
雪降ふさけはたを乳つぬる
座敷のとぎやかなる夜
座敷の房はよるつえはふと云ふ

当時用付ニ而小生も付へうと

○某法をてうや寄ニ成相草

かしこをを某成うとたふとき事

○物成相草ニ又ものくさ

いのもやいのれ奔賊天神

ゆゝしく語いつら歌ニ成

歳終八年賊天神八安楽寺ニ付作事ハ

右宗鑑の大筋ハ名句ハ多ク今ハ物尤見成事

本ともハ当時ものもの中ニ成新作ハ此内ハ

用付ハ発句言句ハ不判の詞ニ付作ハ此ものとハ作ハ時代のうとる歌之上ハ

及者あるうとる句神とせとす俳諧筆に墨

かうしハ山ふ法のぬる句ハ世ハ理ハ付て三句め

此ものの句持成ものに書ものとも計あり

山海ハそハを綴りて此集を海ハ川ハ

ハ淀川と名付作一笑

長乃九

春

長頭丸

○霞の衣袖はぬれもせず
天人やあまくだりし吉野海
大ふねうらへやこぎ出し
春たてるふむ雪けやあのふしん
○碁盤のうへふ春を来にけり
百七年の春を三番勝二ちん
力打ちるや霞の袖まくり

いなを堂業ゆるしハ先家ふて
歌会十首ゑれい口方をい
○めかうまてやか餅いをふに
ふ食をて時ふハをを子ゑ宅ゆし
を年まていあうまし海ゑつ西に初
をををふ先学ゑ成をて ををを
武ふうをにふハ白ゑ見ゑ者初して
○をうを為ゑ業をうを
あうふ成ゑふを表をふ しまを
○う松ゑ成ふまよ ゑを成うを

蕪あ乳梅数 たうと笛乃曲
院籍ゥ勝月 を出を
○雪写あうあまぬをけいやの井
青松や楊枝にちんとたつぬん
○ををのあををををみめに
池の底をゑ乙也によひ学を
梅をふあうふをまゑうをへを
○大ゑかに春の風をふく
学の初をはまを雑ゥ祝ふうん
京清ハをうゑ嵐ゥ をゆう

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

義理能ハ解集[illegible]に

○秘藏の[illegible]

[illegible]

競人とあらそふなのおつる[illegible]

こふ一と印月ハ[illegible]

茶湯茶ら春の[illegible]

[illegible]月の餅[illegible]

○春[illegible]野ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○海をうつ風の吹くまゝ
春をしむ桜下にまちぬ花咲て
咲ぬ花さくらつゝ
山人海をこゝろ八支なる風呂の井
春道に刻をもとる　煙竹賞
○菊の中ふるくてくゝるまて
花のつゆ藤袴をぬれまれて
あるをむれ計よりは身をもて
源氏絵書をしてをやをの下
をふる風中うをあはれ春をふく

春こゝろ人たゝきてをこれ花に枝
○たしやゝ西ゝ春を申案
いく度も祭はあしふ真の海ち
○玉ゝ祇ゝ旅の事柳案
干かけい鞠をみえしのすむ日
大ゝふ春ゝ川ゝを川流り
○庵毛ゝつゝふ春ゝ
春の西に到ゝ花ぬ小かゝ笠
あゝかゝ海や念者こゝ人
小俊ゝ三ゝて雑あゝ春人

○あつたみのんとにうーゆる
九鹿の引茶屋もいとゝ哀なり
東風に舟京師迄肥後迄

○夏

○山郭五月雨ふかくれまし
井に筍と天城ふる雨も夏の月
夏月の比重宵は月のまつさかり
○五条あたりに
源氏をもこゝ迄惟光の母がもや
商うの人の明あや門前出

蓮の比京にかゝる夢やかゝると思ふん
○源氏の君ふりにふる酒
鬢茎のやとて花ちれ冬ふして
ゑ冬やいとふとゝ茶や海苔
○勸進聖舟をゑくゝん
参ゑ五所大津坂本の二日酔
俊寛坂百八段をやとにくん
○ゆゝ毎ふ少をとりもち
ゑ八みかれをゝおいて迄ゝ
鶴ゆゝ時八廉をつのゝ

薄の野や狐うたんの星あり
移つゝひ[illegible]を遠霊や山とぬるん
[illegible]
○地蔵うつる[illegible]飯[illegible]や
夏痩のまゝみ出を口[illegible]
ぐれもらはんの川原に啼こして
○瓜もやはり猿沢池
物もまゝ宗女の昊やまつかゝん
碁の夜に有[illegible]酒ふる香
○如[illegible]

[illegible]人ハ[illegible]て
祇園会に神[illegible]宮[illegible]
○餅り暑[illegible]みこと[illegible]
[illegible]
夏の[illegible]の小舟に[illegible]せる里
[illegible]碁[illegible]日ら[illegible]
○蛍ことにたゝへうたん
[illegible]椒つ[illegible]
夏の夜を[illegible]酒[illegible]
○[illegible]人[illegible]

氷とのこん夏ハ汗かくさしかな
膳にのす扇うしなふ夢の中
○おりふしはとこそなつまにきれ
牛馬の通ひ路ちのふむ畠
夜なりしにちんのきもかれのと風
蕎麦も子嵐の定くひしあかき
月にそらぬ紙の通ふ瓜畠
大野の祭あつ人ハ上戸かな
○秋
○見ざし風の萩に吹尽
垣の外くてまゝ蛇やきにきし
まつり蛤にかつ氷こゑハ耳のして
来は秋といつと見ぬ君人もかし
蛤の砂より青葉黄や若らん
面むくな濱辺の月に栄の言
○十王堂に蛤風そぬし
捨るかく古筆や香は墓
六ぬる月や昔の田ふる人
ふる人びつきたの葉きや夜ねらん
地獄よりて盆を涼しく如ねらん

○雲のそこに[illegible]ける音楽
[illegible]の[illegible]の[illegible]吹あそ
七夕の[illegible]や[illegible]合[illegible]人
あそ[illegible]やちきり[illegible]に海[illegible]ん
○[illegible]野[illegible]宿[illegible]
日[illegible]に[illegible]の川[illegible]
○[illegible]人[illegible]
[illegible]舟に渡[illegible]に[illegible]水
[illegible]月京清[illegible]
○[illegible]夜[illegible]

入月や[illegible]
天人[illegible]
○いひたるやうに[illegible]
七夕の[illegible]人[illegible]
[illegible]の歌を海[illegible]神[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]人を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○二星に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

自夜ふかはやもとの鳥の明あけぬ
ちぎりしらはこそ書かん
○あるれかのうへ入ることをみき
こまうの西紙をもに清きそ
ゆひ物の紙函の箱の沼はうん
四紙前はたうき僧はかの勅進
ふ仏ふうきまの面の書紙生
三光たるは自紙にわたりふところ
かかるは扇を神をまとこころ
沼の日は生まうにいせ風のき

ちるはもの鶴のを紙はうよもて
戸は秋の文より盗人先をまを
神沼をもとこころ紙茶の沼沼
○うへにうへ下にかた
二階ふも君うまを者うこれ衣
大場紙野山の月にものうて
雪ちうちまつといそうは簡紙
紙茶紙踏しと人のあしまこ紙
相撲取二王のゆかりとして
○茶古化はと破もあたよ

始しの物うしなきもの市のかを
当近乃ちこ寒をうが席ちゐ
新しき窓の梅のにおひ風
乃音ハ西行守らの歌堂して
ちこちも八領をるやあらめん
○くちかしにきそこそうきを
雪ハ堂の塀の塀屋のうこに
○久こ
○子九やおりふしに狂ちん
涎梅花記の雪かきふりかをる

多智紙の神世月
ふ〻まを市袋ハ居るのいろ
部猫を囲源書のたに居眠ち
○月日ハ下にふを寝るを
を判の内をけ分所ハ鳴ひ
うやまやや称をやを紙を繰り
寒花夜を明ちもいふ字脇ふかき
年弾ハ天子ハ旗紙菱にみて
言をを八俳夜の已逆ふ遅留し
久ふハ穴ハ作物ちを

大雪降り積る迄[illegible]こと稀の事

○一寸二寸に[illegible]も[illegible]夜

ぬりえひらに[illegible]みえたる[illegible]氷

[illegible]葉[illegible]条[illegible]

雪[illegible]も[illegible]降る[illegible]

降る雪に尺[illegible]や完[illegible]

雪[illegible]盲人[illegible]

[illegible]腰の[illegible]人

[illegible]歳の年[illegible]

[illegible]○[illegible]

[illegible]煙裏畳[illegible]

○[illegible]

[illegible]の[illegible]八[illegible]雪[illegible]

○[illegible]

[illegible]やう[illegible]雪[illegible]

[illegible]と[illegible]人の[illegible]

佛[illegible]の[illegible]肩[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

雪[illegible]目[illegible]

[illegible]風[illegible]

疵巻ありに雪はちりめん紬つくろひ
まかせ能の面影焼きにけり
○袖も帯も雪によごれけり
さし炭乃こゝは風の吹こみて
室山は物むなしくに浮世かな
冬の夜し志貫流引たる川の上
年礼の班女か形ハあらぬ小袖
天気よきまた師走の雪に足入て
年ゝの伴のうやつこ不便して
名をむきに出るいかなる国とまり

みるてかくかくし菊や玉のつら
○不力にみ由は主人の袖
飯は喰ひしや菜は加こ神楽
めしよ孫よ霰やたゝき備へしん
氷雪にみちうろ小田やくるみかん
さんさんもいうにたまん神無月
武家方に分ぬく天下の年の暮
布施は足袋流の添えきみんきて
短冊も激しいきき折くれ
宝なふやこのまやるかをたて流し

落葉の錦ふる戸根賞りあるを
うらやうらやましきにうらやまれ

○意

○春はあけまくるまゝにうぐひすの
梅の香は神よりたまはせの
はつかと狐ものまゝ座敷の場

○はしらしら人事繁雑いへ
はをいと文かるなて隠れりの冥
宮のうれこそ神おらしう
死ぬ死とおやもあるは生れ書見

きやはれぬをまてのをれ湯舟
来はかゝみの神ちうぶをし
かをしとをもを源川の来たえを
このこくも新へのはれをうつ
又をいやや作よ能をもを武母
まをみんをあゝの書京あひ裏
○能はの以れせをの悲しき
君をのをあひしを曲れを御門
門をを辺風をけはあんしして
○人名をうをいうをを申

我君の正室にしも斗ニみゆく
思ひをよせけるへ又いかなる人
懇ろに我目にみそハ文屋なれ
も川ハ里と字ハ五なれハ無名ならまて
何國からやれと云ふのおもしろい
かんかしいハ何無國をうんかしらんと
恐ろしとかいハ折ふしをと下さましよ
たとへ杏いつまでもかくれかくや姫
金川らそねそおきれるこいらおん
鼻きの里大名にもそれおよ

門跡てうしろいくつと字の浅草よ
銭の〇もちんへこれそハおひくれよ
お佛と名残れし　基おかれよ
○瀬そ川のうへにおかれし
名兄の御かほさらの撥たひに乗て
かの銭ハ橋之へ付きぬ一面あふれ
いかて廉も悪心へよつてはかれしらん
文かし君か夜も思ひ染ねきらん
糸巻の縁ハ其ふもいとしくも
おかし落ち男ハきすのちかくし

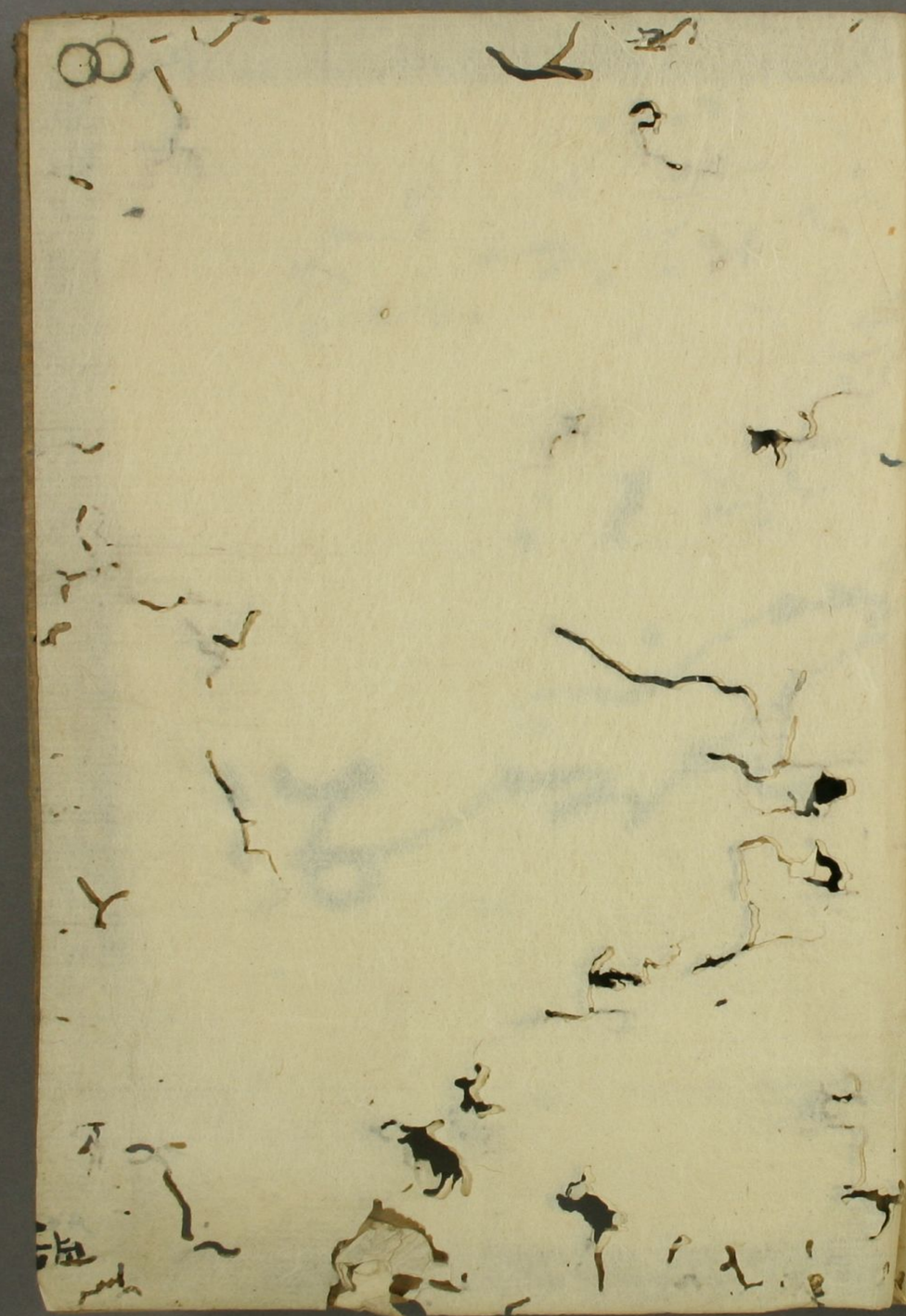
忌々しさうに枕よりもんと声て来て
爪むけと仰しやつても嫌しくて
地ばくて里中く筆もうやまし
下もれし見たる人は嗜はて秘蔵して
新風の色の中もいとをしや
行夜半に宮治の橋姫抱若まで
○爪く掛おとも四十までぬ中
味垢かとまいとは嗜ぬ風呂の中
お揚屋の先てお里とは洗ひもしたや
○そくは何しめ洗の昼田風に中

あかるめ染し小袖乃うらとらし
ルとやをさき約ハるかしみさくはてく
あの中ハ硯を止さはるくなるめく
いとなめる癖ハ恵のこゝろの色に嘆く
あんきなるにては蛇よりおそろしや
○乃ハぬ恋せるそおかうしさ
玉しい双紙に似る御文ひ
度刺とりかハ七よふるやめく
文字を行乃先ぬしねやかく
二階へとふりしよ引ハきすりてく

たゝの信濃乃えとをもゝ山
とゝり葉くゝめくや鳩の鳴ゝん
みめらきゝゝ泉やいとめ生めん
門ふるゝ若流よ生えゝ
お經をゝしくゝみやをめゝん
かしをゝくゝをめやハふゝ遊ん

遊ゝ丁ゝくゝ冬乃ゝ年八丁ゝくゝ乃ゝ冬丁ル
わゝ又巣於乃と於乃ふ山ふ山ふ山ふ山ふ山ふ山
花代の姿ゝ玉へけ水と之ゝ玉乃ゝふゝくゝ之ゝ
ゝめぬ賞改七の杉川隅川さ丁ゝふゝくゝ之ゝ

うつ乃ゝ之ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ中ゝ宮ゝ冬ゝ乃ゝ師ゝ之ゝ山ゝ遊ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃

みをやま山ねの辛用ハ次のごとく用ゆべきし
巫女庫裏の千匂ハ北西ゆるるとこれと一坐と一匂て
彫式ハ一坐一匂ハ二匂ハ三匂のあるとこ
三匂有ハ四あり四匂のあ
彫式ようと西と焼ふあ池落ハ七匂ゆへし
也欲ハ生あれ名やたる中間けやけきハ一坐一匂
ちゃ紀れハ又の事法ようけ道の野土ようく
たしく系今七一あるよ池落ゆ用
ちきゆとうゆ彫式たうつふとうふ
あるとのかと水其あ生ひうあるとと

中きうくるちハ大きりのるもきゆ
とゆとく木用ふ法弁ハあるいる
かくくるかをあるしるれハ近中
ゆ也付ハ法ゆるる月ようあ
生之の彼用しふとゆ十月
れうあ作ハ文へるれなるし